



【校訓】 立志 ・ 協働 ・ 生命

南風 ~ MINAMI KAZE ~

高知市立南海中学校 学校便り No. 18

令和4年6月1日(水) 通算 2114号

高知市長浜 5235 Tel.088-842-3291

南海中は独自のテスト方式を取り入れています 単元テスト

令和3年度からの新しい学習指導要領の実施に伴い、授業中での活動の評価や短い周期での評価が求められるようになりました。これまでのように、学期の中を2つに分け、テスト期間を設けて一斉にテストを行うという方法では、生徒の学習状況を適切に評価することが難しくなります。

そこで、南海中学校では、現在の学習指導要領の実施に合わせて各教科の単元ごとにテストを行う『単元テスト』方式を取り入れています。これは、小学校での学習評価の方法に似ています。これを図で表すと下のようになります。(国語・社会・数学・理科・英語で取り入れています)

学 期	1 学 期			
月	4 月	5 月	6 月	7 月
教科の単元 (例)	<……単元1……>	<……単元2……>	<… 単元3 …>	< 単元4
単元テスト 方式の場合	《単元1の学習範囲》 単 テ	《単元2の範囲》 単 テ	《単元3の範囲》 単 テ	《単元4…
定期テスト 方式の場合	《単元1と単元2の一部》	中間 テスト	《単元2の一部と単元3》	期末 テスト
定着度の確認 の手立て	それまでの学習内容		学力診断 調査(6月)	学力診断 調査(8月)

単元テスト方式のメリット

- ① 単元ごとの学習の定着度を測るため、定期テスト方式に比べてスモールステップ(短い周期)で学習できるため、集中してその単元の学習に取り組みやすい。
- ② 各教科の単元テストがそれぞれ別の日に行われるため、定期テスト方式に比べてその教科に絞込んだ学習を行うことができる。
- ③ 単元ごとにテストがあるため、各単元の「できる」「わかる」といった学習定着度を把握しやすい。

一方で、これまでのように「テスト期間」がないため、なんとなく過ごしてしまうと、学期の終わりで慌てることになります。そのため、これまで以上に日頃からの1時間1時間の授業や普段からの家庭学習が重要となります。

また、学習内容の定着を長期にわたって確認するため、南海中では年間4～5回の「学力診断調査」を行います。これは、これまで習った内容がすべてテスト範囲となる実力テスト形式のものです。

中間・期末テスト 消える?

高知市立中「単元」へ移行増

高知市内の市立中学校・義務教育学校から「中間テスト」「期末テスト」の名称が消えつつある。代わりに登場したのが、学習の区切りに行う「単元テスト」だ。本紙が全19校に聞いたところ、5校が単元テストに移行、7校が移行を検討中と回答した。授業の理解度をその都度確認し、学力定着につなげるのが狙いという。

2021年度から単元テストに変えた南海中(長浜)は今月上旬、2年生が社会のテストを受けていた。これまでの定期テストなら教科書の出題範囲は中間が30%、期末で50%超ほど。それが単元テストは20%前後になるという。

この日は安土桃山時代(12%)で、35問に挑んだ男子生徒は「出来はまあまあ。他の学校は範囲がもっと広いがやろ。それやと絶対無理や」と笑った。範囲を短く区切った単元テストは、教科ごとに実施日も異なる。広瀬啓一校長は「定期テストは範囲が広く、全教科一斉に行う。諦

めた先に立ち、学習に向かう姿勢にならない生徒もいた」と明かし、単元テストにすることでハードルが下がったとする。同時に「テストの度に、授業の理解不足も分かる。補習でのサポートにつなげやすい」と話す。

単元テスト導入で、5教科のテストの回数は定期の年5回から、年10程度と倍増。それでも3年の鍋島彩華さんは「短い間隔で試験があるので授業がより大事に感じる。テストが多いのは大変だけど丁寧に勉強できる」と納得の表情だ。社会科教員も「定期なら安土桃山時代の出題はせい

試験範囲狭め定着確認



社会の単元テストに臨む南海中の2年生(高知市長浜)

ぜい5問。単元なら深めて出題できる」と強調。単元テストの点は直前までの自分教員の成果でもあり、授業改善につなげやすい」と話す。

同校では、より出題範囲の広い実力テストも年4、5回実施。これで全体的な学力把握を行っているという。南海中以外では、城東など4校が中間テストのみを廃止した。期末は応用力や全体の学力を把握する試験として残している。ある校長は単元テストについて、「教員の授業内容が適切だったか、成果が出ているか、生徒の点数として表れる。教員も評価されるということ」と言う。

一方、今後も中間・期末の定期テストを続けるという学校は「テスト週間であらゆる授業に没頭し、試験に挑む経験は高校入試に生きる」と「学びを計画的にコントロールし、試験に臨むのも大事。折に触れて小テストや宿題などで学力把握を行っており、定期テストで対応可能という。文部科学省は19年3月、全国の教育委員会に向けて学校の「生徒評価」が長期休業前の学期末や学年末に行われるため「学習改善につながない」「慣行として行われてきたものも妥当性がなければ見直しをする通知を出した。昨年度にスタートした新学習指導要領では、新たに「学習評価の充実」という項目を設け「評価の場面や方法を工夫し、学習や指導の改善を図る」ことを求めている。

高知市の松下整教育長は「定期、単元のどちらが優れているというのでは無い。テストの方法は「生徒にどう力を付けるか」を各校の実情に合わせて考えた結果、学びのめりは時代